

技術ノート KGTN 2010062201

現象

GMCheckRaw のトレース機能はどんな時に使うのか？

説明

Rel#1.07.01 で実装された **GMCheckRaw** のトレース機能は、同プログラムと GG (APS) の通信のタイムスタンプを記録することで、「どの処理の周辺に問題があるのか」を突き止める時に役立ちます。例えば、**GMCheckRaw** コマンドを入力してから、ログファイルに

2010-06-22 13:49:02.656 -> checkServer

が出力されるまでに 5 秒かかったとすれば、プロセスの生成に約 5 秒かかったこととなりますので、Windows やハードウェアに問題があると推測されます。

また、**SMI_Initialize** の呼出し前後の時間をチェックすることで、GG サーバへの接続に要する時間を確認することが出来ます。30 秒かかったとすれば、CPU の過負荷、プロセス間通信の一時的障害、ネットワーク障害や設定ミス、Windows の異常等が考えられます。

2010-06-22 13:49:02.656 -> SMI_Initialize	SMI_Initialize の呼出し前
2010-06-22 13:49:04.312 <- SMI_Initialize	SMI_Initialize の呼出し後

これ以外にもローレベルな情報を採取することが出来ますので、「正常値と比較することで」問題解析の手掛かりとして役立てることが出来ます。

Last reviewed: Jun 22, 2010
Status: DRAFT
Ref: NONE
Copyright © 2010 kitASP Corporation